

酪農とちぎ



弥生

旧暦三月を弥生(やよい)と呼び、現在は新暦三月の別名としても用いられています。弥生の由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月(きくさいやおひづき)」が詰まって「やよい」になったという説があります。また、この時期は気温の変化が激しく体調を崩しがちですので健康管理に留意下さい。

皆様におかれましては、確定申告の期日が迫り、決算書類の作成中と察します。正確な記帳と、その結果を基に経営の改善と次年度以降の目標を設定し、その達成を目指して頂きたいと存じます。



指導診療業務の拡充について

今後の酪農動向を推察しますと、後継者・畜産環境問題等により酪農中止者が出ることは避けられません。組合としましては、酪農家の減少抑制や乳牛の繁殖障害・乳房炎・周産期病等の対応策を講じ、かつ、長命・連産できる飼養管理及び泌乳・乳質向上を図り、生産コストの低減による所得向上が急務です。これらの課題のうち、繁殖障害、乳房炎防除、周産期病についての対応策として、来年度より指導診療業務を拡充し、組合員個々のニーズに応えられる経営技術支援を強化する計画です。

授精師が充実していることや組合獣医師利用農家の理解を得たことから、従来の臨床診療業務を今年度で中止し、平成十七年度より生産獣医療を主に、獣医師の専門的技能を活かした次の三項目を重点事業として取り組みます。

定期繁殖検診事業
総合的乳房炎防除事業
受精卵の採取・移植事業

具体的に繁殖検診事業では、定期的に巡回し、直腸検査等を実施して、空胎日数・分娩間隔の短縮を目指します。乳房炎防除事業では、バルク乳のスクリーニングテスト・搾乳立会等を実施し、細菌の汚染状況を把握した上で防除指導を行います。受精卵の採取・移

植事業では、受精卵のガラス化保存技術を導入し、優良乳用後継牛及び高付加価値肥育素牛の生産を中心に、採卵・移植を実施します。また、周産期病予防のための血液検査につきましても、実施体制を整えます。

事業実施にあたり、去る平成十六年十二月一日・二日に東北・中央の二か所におきまして、契約獣医師（三十二名）・人工授精師（七名）の出席を得、臨床診療から指導診療への移行についての主旨並びに指導診療業務の推進方法について説明し、事業への理解とご協力を頂いたところであります。

今後の業務体制につきましては、機構改革とともに、ふれあい牧場内に診療課を設置、必要な機具器材を整備し、指導課と連携を図りながら事業を推進する計画です。また、各事業の実施要領・内容等につきましましては、別途ご案内し、

それぞれのマニュアルに基づき事業を進めて参ります。各事業のお申込みや詳しい内容等につきましては、所轄支所・事業所の指導課までお問い合わせ下さい。



指導診療業務の説明会(那須高原支所管内)



農業士に三名認定

今年度の農業士認定式が一月七日に県公館で行われました。本組合より次の方々が認定を受けました。

農 業 士

有本孝之さん（那須町）

檜山政義さん（南那須町）

女性農業士

増山英子さん（真岡市）

名誉農業士

大阿久要さん（栃木市）

当日は認定者夫妻が出席し、新たに農業士十二名、女性農業士九名、名誉農業士十名が認定されました。福田富一県知事より激励の言葉を頂きながら認定書を一人ずつ



有本夫妻



檜山夫妻



増山夫妻

つ手渡されました。また、新農業士代表挨拶は、農業士としての自覚と新たな決意を述べられました。

今回認定された皆様には、心よりのお祝いと、更なるご活躍を期待申し上げます。



平成十六年 乳代集計結果について

昨年の組合生乳生産実績は、酪農中止者及び猛暑の影響を受けながらも経産牛一頭当乳量の伸びと

一戸当り飼養頭数の増加に支えられ、三、〇七九頭の増となりました。

これは、組合員の経営向上に対するご努力の成果と、あらためて感じるところです。支所別に見ますと、

均は約一萬六千kg・平均出荷量は三十三万二千kgと、飼養頭数に比例し乳量が向上しており、積極的な増産が数値に表れております。

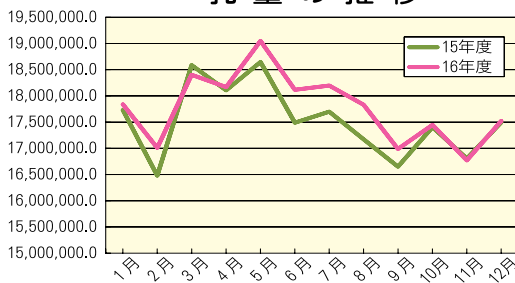
乳代の基準乳価は、十五年と比較すると五銭ダウンしましたが、乳質の向上により年間平均乳価は前年並みとなりました。支所別の

平均は各支所共に昨年並の成績を収めております。

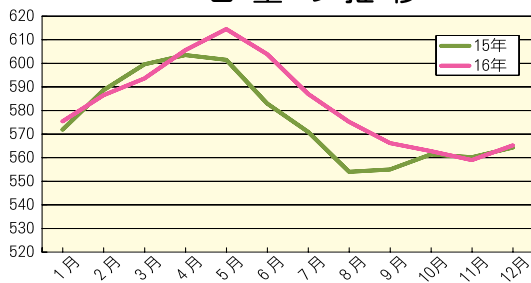
乳質については、酷暑の影響を受けながらも、無脂乳固形分が若干向上し、脂肪率・細胞数について昨年並みの高水準の乳質をキープしており、徹底した乳質管理の成果と見られます。支所別乳質平均トップは、脂肪率・細菌数については那須高原支所、無脂乳固形分が宇都宮支所、細胞数は県南支所となっております。

飼養頭数は、前年より二百八十頭減少し、三万八千八百頭となり、

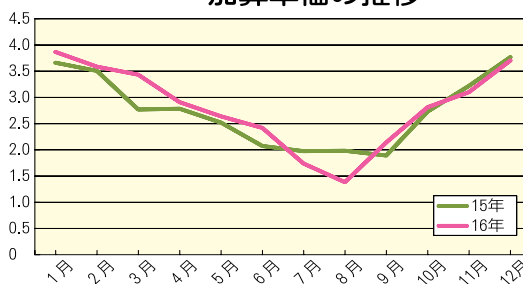
乳量の推移



日量の推移



加算単価の推移



酪農中止者の増加及び初妊牛が高騰するなど、昨年同様な環境の中で、増頭が困難だった事を裏付ける結果となりました。支所別では那須高原支所管内の減少が大きくなっております。一戸当りの飼養頭数は、県南支所の増頭により、全体では昨年並となりました。

経産牛一頭当りの乳量は平均で七、九七〇kg（二〇八kg増）となり、飼養技術の向上は個体改良の成果と分析します。支所別の成績は、宇都宮支所の平均が八、一九八kgとなり、次いで、県南支所・那須高原支所となります。

一戸当りの乳量は、個体能力の向上により八、九五〇kgの増加となりました。支所別では県南支所平均三三三二、八六五kg（昨年と比較し約一六、三〇一kg増加）となり、那須高原支所、宇都宮支所の順となりました。

十六年の集計結果をふり返りみると、猛暑の影響を受けながらも乳量の増産・乳質の高水準をキ

プする事は容易ではなく、各組合員のご努力に敬意を表するところです。昨年は家畜排せつ物法施行に伴い、施設の整備などの対応に苦慮されたかと存じますが、後継牛の確保を安定的に図るための育成牛保有率の向上、計画的な初妊牛の導入を図り、安定した経営基盤の確立を願うものです。

組合員アンケートの集計結果

組合では、JA栃木中央会の総合診断を受けましたが、その際、中央会が無作為に選出して行いました「組合員アンケート」の結果報告を受けましたので概略のみお知らせします。（細部は別紙参照）

組合の事業運営についての満足度は、ほとんどの事業が「満足」されているようですが、乳質検査及び出荷奨励制度の基準に不満が多いようです。事業毎の要望については、市乳販売事業・酪農ヘルパ

ー事業・資金貸付などの事業に「もっと強化すべき」との結果が出ました。自分の意見は組合で取り上げられているかについては、「取り上げられていない」と感じる方が多く見られ、組合員組織の今後については、今後も活発な活動を期待する結果が出ました。また、過去一年間に組合へ相談をしたことのない方も多く、一番の理由としては「相談したいことがない」でした。組合役職員と接する機会は、自分が出向くとき・研修会等の席上・職員が自宅にくるときの際に多く、組合からの情報を受取る手段としては、配付文書・組合機関誌・職員の順で、書面での情報収集が主でした。組合へ望む内容は、購買品等を安価で供給して欲しいとの要望が主でした。役員への要望としては、組合員の要望を基に、経営者のプロとして収益性も考慮した事業運営に当たって欲しい」との要望でした。また、職員に対しては、専門知識

の向上、各戸の巡回、誠意・責任感の向上を求められました。合併の効果については、合併によるメリットは、購買品供給単価の引下、生乳の有利販売、情報提供頻度の向上が主です。また、デメリットとして、事務所が心理的に遠くなった・きめ細かな対応がなくなった・新しい方策や発想が感じられないとの回答があり、ソフト面でのデメリットが強く表れています。

組合の事業活動の良い点は、気軽に利用できる・将来性がある・安定性があるの順で、評価が低い順では、役員が組合員と疎遠・仲間意識が薄い・組合が組合員のためにあると感じないなどです。

組合といたしましては、この集計結果を踏まえ、今後の業務遂行に生かし、皆様の期待にこたえて参ります。また、個々の提言に対しても、今後充分検討して参ります。



東西南北

那須高原支所

各地域酪農組合研修会 三支部合同研修会

二月八日、那須町のホテルエピソードにて、約六十名の組合員が参加し、三支部合同研修会を行いました。研修会は前田組合長を講師に迎え、近況の酪農情勢、十六年度事業の経過報告、次年度の事業計画等について、一時間にわたり詳細な説明がありました。

また、建設が進んでいる那須高原支所及びCSの進捗状況に触れ、施設合理化の有効性についても説明されました。研修会終了後は懇親会に移り、三支部組合員の親睦を深めました。

大田原地域酪農組合全体研修会

二月九日、大田原市のニュー勝田屋にて四十五名が参加し、大田原地域酪農組合全体研修会が開催されました。菊池副組合長を講師に迎え、今年度の業務経過報告、今後の組合事業及び酪農情勢等について、事細かに説明を頂きました。

た。研修会終了後は親睦会に移り、更なる地域組合員の親睦を深めることが出来ました。

宇都宮支所

各地域酪農組合研修会 宇河今市地域酪農組合

一月十七日、宇都宮市のアピアにて、二十五名の参加を得て、研修会を開催しました。

はじめに小林幸雄地域組合長より挨拶があり、その後研修会に入りました。研修会は、菊池副組合長から組合の各事業の状況や国内外の酪農情勢等について約一時間にわたり報告



を頂きました。その後懇親会に入り、意見交換や酪農現場での出来事など生の声を伝えるなど有意義な一時を過ごすことが出来たようです。

塩谷地域酪農組合

一月二十五日、氏家町の野州バードパークにて、二十名の参加を得て、研修会を開催しました。

はじめに加藤一男地域組合長より挨拶がたがた組合状況や関東生乳販連の中長期計画(案)等について報告があり、その後研修会に入りました。研修会は、赤堀参事より昨年の酪農情勢を振り返りトピックスを話され、また組合の各事業の状況や来年度の機構改革等について報告を頂き、その後懇親会となりました。

女性会塩谷支部

一月二十四日、氏家町の桔梗にて、三十名の参加を得て、研修会を開催しました。

はじめに斉藤典子会長より挨拶があり、続いて塩谷地域酪農組合長の加藤一男氏から挨拶がありました。研修会は斉藤 修理事から組合の各事業の状況や酪農情勢等お話しを頂きました。その後懇親会となり楽しい一時を過ごしました。

栃木県南支所

地域の活動近況

各地域における活動を報告します。

十一月

○栃木支部 交流会(ボーリング大会)

○河内南部・下都賀地域酪農組合 研修会・坪山産業(鹿沼市)

○町民祭 芳賀町、市貝町、茂木町、益子町、真岡市

酪農業のPRを兼ねた乳製品の試飲・販売

○真岡市乳用牛共励会

真岡市長第一部 増山清樹

第二部 柳 宗一

○環境美化花の苗の配布

十二月

○河内南部・下都賀地域酪農組合 環境美化調査

芳賀町酪農組合 町民祭反省会

○県南支所ゴルフ愛好会 コンペ

○芳賀地域酪農組合 前田組合長との懇談会・忘年会

一月

○新年会・懇談会 益子町、谷貝新田、市貝町、上三川町、沖、青年部芳賀支部

○河内南部・下都賀地域酪農組合

前田組合長との懇談会・新年会

○真岡市酪農組合(大島浩牧場)

○ヘルパー利用組合県南支部

懇談会

二月

女性会河内南部・下都賀支部

手芸講習会

女性会芳賀支部 料理 講習会



部課だより

生乳販売部

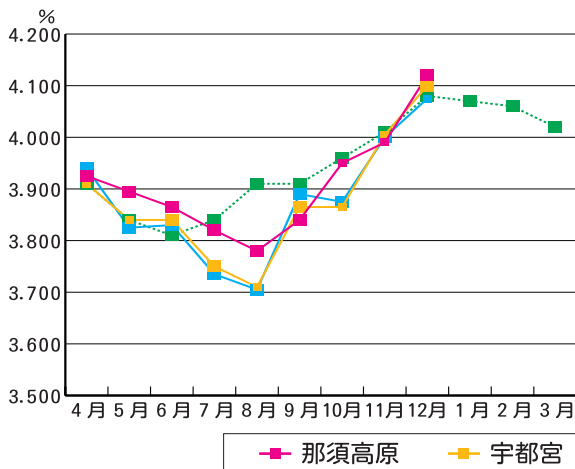
前年並み水準での生産続く

十一月が前年実績をやや下回つ

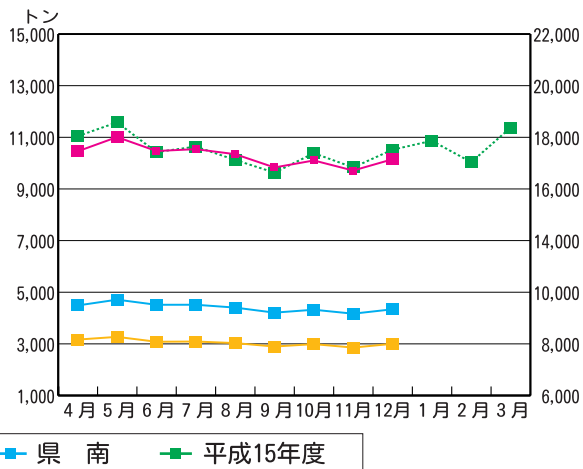
たことから十二月の生産が懸念されましたが、一〇〇・二%とほぼ前年並みの堅調な生産が続いております。支所別にみると、那須高原支所においては九九・九%と前年並み、宇都宮支所においては一〇二・一%と堅調な生産、県南支所においても九九・八%と前年並みの生産となっております。

全国の生乳生産動向については、北海道が九七・二%、都府県も九八%、全国で九七・七%と減少傾向が続いており、累計でも九八・九%となっております。昨年まで堅調な生産を示していた主産地である北海道においては回復の兆し

◆ 脂肪率の推移

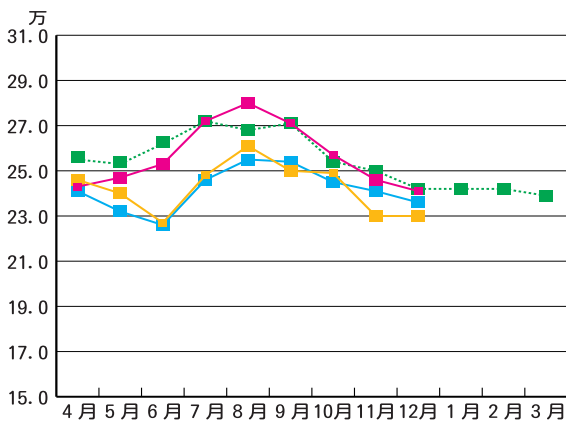


◆ 乳量の推移

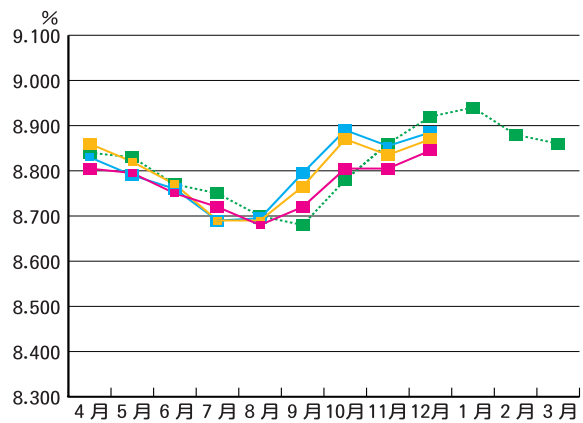


が見えない状況にあります。関東においては九八・三%と相変わらず

◆ 体細胞数の推移



◆ 無脂乳固形分率の推移



ず減少傾向が続いております。生乳需要の動向においては、飲

用牛乳向けは相変わらず低迷（二・三%減）しているものの、醗酵乳向けについては八・四%増と前月に引き続き回復傾向を示しておりますが、飲用需要の回復傾向には至っておらず心配されるところです。特定乳製品向けについては、飲用向けが減少したものの、生乳生産量が前年を大きく下回ったことにより七・五%減と大幅な減少となりました。

組合における乳質成績は、脂肪率が前年並みの成績（四・一%）に回復したものの、無脂固形分率は前月に続きやや下回り八・八七%（〇・〇五%減）となりました。細胞数については前年を〇・四五万向上する（二三・七万）好成绩となりました。十二月迄の乳量及び乳質成績は上記のとおりです。



酪農部

栃木県酪農発表会開催

「酪農への思いを発表」

平成十七年二月四日、宇都宮コンセーレにて第三〇回栃木県酪農発表会が開催されました。百六十名余りの参加者を前にして、六名の発表者が、個々の経営状況や酪農に対する思いを発表されました。当組合代表として、酪農経営発表部門に青年部桃井一嘉氏(那須町)、酪農に関する意見、体験発表部門に女性会人見みゆ子氏(那須塩原市)、青年部小滝淳氏(南那須町)、同じく伊沢琢磨氏(上三川町)が発表されました。

人見氏は、「農業の可能性は無限大」と題し、グリーンツーリズムと「体験館「TRY」「TRY」「TRY」での取り組みから、食農教育と、酪農の良さを発表されました。

小滝氏は、「私の目指す酪農経営」と題し、地域の仲間との交流を通して牛群能力の向上に取り組んでいる姿と、ゆとりのある経営を目指したいと発表されました。

伊沢氏は、「酪農後継者として」と題し、若き経営者として専念し、周辺環境が厳しい中ではあるが、牛群のレベルアップや消費者を意識した経営を目指したいと発表されました。

審査の結果、三月二十四日(木)二十五日(金)に開催される「関東甲信越酪農経営発表大会」(群馬県伊香保温泉「福一」)に栃木県代表として桃井氏と人見氏が推薦されました。

発表者の経営内容と前向きに取

組む姿勢は、参加者にとって大変参考になった事と思います。発表者の皆様お疲れ様でした。

また、栃木県代表として今回選ばれたお二人並びに前大会より選ばれた永嶋志保子氏(市貝町)には、自信を持って発表大会に臨んで頂きたいと思えます。



左より、桃井さん、二宮さん、人見さん、伊藤さん、伊沢さん、小滝さん
(酪とち)(栃酪)(酪とち)(栃酪)(酪とち)(酪とち)



2月ホクレン初妊牛市場成績

(単位：頭、千円(税込))

市場名	開催日	成立頭数	平均価格	~350	351~400	401~450	451~500	501~550	551以上
根室	2月3日	477	519	4	5	45	96	186	141
十勝	2月4日	480	522	4	6	18	99	241	112
豊富	2月17日	286	520	2	1	16	62	137	68
十勝	2月22日	501	543	7	7	19	56	161	251
北見	2月23日	474	541	2	9	16	79	149	219
釧路	2月23日	315	532	1	2	16	31	128	137
根室	2月24日	496	559	3	4	10	35	108	336
合計		3,029	539	23	34	140	458	1,110	1,264
前月		1,912	510	16	62	182	527	783	342
前年同月		2,979	494	41	77	311	762	1,180	608

家畜市場成績

平成17年2月

(単位：円(税込))

市場名	種別	成立頭数	平均体重	最高	最低	平均
西那須野 十五日	ホルス雄	139	-	58,800	1,050	39,982
	F1雄	67	-	163,800	52,500	135,983
	F1雌	81	-	103,950	26,250	67,719
館林 十七日	ホルス雄	6	68	59,000	40,000	48,167
	F1雄	9	71	167,000	101,000	136,111
	F1雌	14	70	113,000	58,000	93,643



理事会だより

一月度理事会

報告事項

- (一) 資金貸付について
- (二) 一月分生産者支払乳価について
- 協議事項
- (一) 十二月度事業実績について

ハーフ・タイム



「春一番」の風来・ひな祭りも過ぎ、三寒四温とともに春の訪れとなるが、「花粉症」が迎え待つ。イギリスの「枯草熱」がグルーツと言われる花粉症。今や、国民病とも呼ばれ、多くの人々が悩み闘つ。目のかゆみ・涙、鼻水・鼻づまり等、様々の症状にゆううつな日々と察しますが、しばしの辛抱、負けずに頑張りましょう。

※ ※ ※

オリンピックといえ、五輪・パラリンピックの華々しさを思い浮かぶが、もうひとつ、知的障害者のスポーツ祭典「スペシャルオリンピックス冬季世界大会」が、

- (二) 平成十七年度配合飼料・混合飼料及び粗飼料供給別利用奨励措置について
- (三) 第四回酪農まつりについて
- (四) 診療業務機器購入について
- (五) 酪農ヘルパー基金拠出について

お知らせ

肉用化牛出荷事業について

アジアで初めて長野県で行われた。今大会には、世界八十六カ国から二千七百名が参加し、スキー・スケートなど七競技七十九種目にわたり、障害のハンデを乗り越え熱戦が展開された。審査も単なる順位のみでなく、持てる能力をいかに発揮されたかが評価され、参加者全員が表彰台にのぼり、観客から健闘の祝福を受ける。これぞ真なるクーベルタンの「勝敗より参加することに意義あり」精神の真髓と共感する。

※ ※ ※

地球温暖化を防止するため、先進国に温室効果の排出ガスの削減量を定めた、いわゆる「京都議定書」が先月十六日発効された。

予測では、このまま温暖化が進むと、今後百年間に地球の平均気温が一・四度から五・八度高くなり、

「廃用牛出荷業務」については、廃用牛の取扱いのみならず、肉専用種・交雑種等の取扱いを行っており、事業名を「廃用牛出荷業務」から「肉用化出荷業務」と事業名の変更を行いました。また、取扱い手数料を、「精算金の1%とする」から「一頭当り一、五〇〇円とする」に四月一日より改定いたします。

異常気象・生態系の破壊、更には、海拔の低い島国は水没し、わが国の砂浜も八割が水没する懸念ありといわれる。本当に恐ろしいことになりかねない。

わが国は排出ガス削減目標量を六%と公約したが、現実逆にして八%の増加になっており、苦しいスタートとなった。今後の削減対策については、政府を中心に検討されようが、いずれにしても省エネ対応が求められるので、今から研究・実行せねばならない。

※ ※ ※

新那須高原CS・支所の新設工事も順調に進み、建物に続き貯乳タンク四基が立ち並び、国道から一際目立ちます。完成は支所が三月末、CSは五月の予定です。現地を通りの折には是非ご覧下さい。

(Y)

パソコン一年生 ハードディスクの寿命

先日、私のパソコンのハードディスクが逝ってしまいました。160GB、5400回転のものなのですが、ほぼ休み無く丸一日回しっぱなしで一年半程で壊れました。調べてみると、どうやら寿命は温度、デフラグの頻度などが関係し、使用環境によって大きく開きがあるようです。特に排熱は大切なようです。

デジタルデータは不朽と思われる方もいらつしやるようですが、使っていれば壊れる日がやってきます。やはり大切なデータはバックアップを取らないと泣きを見るようです。「カコン、カコン…」と音がするようになったので、「やばいなあ」とは思っていたのですが、聞こえないふりをしていたのが失敗でした。バックアップは手間と費用がかかりますが、車に保険をかけるように、データにも保険をかけるべきなのでしょう。私はハードディスクを増設し、バックアップを取れるよう対策を行いました。皆様もご注意ください。

